

東京、2002年1月13日

0へ、

私たちのような西洋人は、古代ローマ人の子孫で、ブルグンド族、西ゴート族、東ゴート族におかされたものの子孫は、千年近くのキリスト教文化も結局は火に油を注ぐことしかしなかったa 教の大饗宴のe かな文化を通して、商人の言葉、政治家の言葉、うそきと詭弁家の言葉を話すu そのことを忘れてはならないu 26文字は誤謬や過不足ない表現が可能であるアルファベットを形成するu その冷淡な効率の良さはアルファベットが最初商人言葉としての性格を持っていたことを示しているu

初期の文字はシュメール人の楔形文字であったが、その後ウガリト市やバビロソ市で発展した文字が22のフェニキアアルファベットを形成し、それをもとにラテン文字そしてヨーロッパ文字が生まれたu その唯一の目的は地中海での貿易だったu 精緻な言語はまるで数字を並べるように書くが(フランス語でメッセージを解釈することを「数字をばらばらにする」と言うではないか)、e かな詩作も可能にする文法をも備えているu「オー」の音をフランス語では3通り書くことができる「o」「au」「eau」(ところでフランス語の「eau」という言葉はなんと美しいことかu この3oの文字をばらばらにしたらそれぞれの発音は3o合わせた時とはまったくaなるが、3oを合わせるとなんとも言えないニュアンスが生まれ、それは「水」という言葉となり、その言葉のo微妙なニュアンスを伝えるようになるu)

日本語では「オー」と発音する文字は37文字もあり、それでも日本語としては少ないほうだu 26文字の言語は日本語で書くことのできるどのような言葉も難なく書くことができるu アルファベットを使う国では8歳の子供でも正しい音で文章を読むことができるが、日本語の場合、ひらがなとカタカナで71文字、加えて漢字が何千とあり、日本人はそれらを使っても僕の名前を正しく発音することができないu ラテン語、商人の言葉、商人詩人のことば、詭弁家商人のことばu 少なくともそこで違いがあるのは、西洋人は断言をし、日本人ははっきり物事を言うことができないu 理由がなくとも売り込みのできる商人と理由はわからないがノーと言えない顧客の意志疎通の無い出会いu

エリックより